



## ティー・ロウ・プライス グローバル株式 インパクト投資戦略

# インパクト・ステートメント

2021年8月

世界の変化に伴い、社会、政府、規制当局および委託者からの圧力が現在、環境・社会面の様々な変化を促しています。企業が世界的な課題に対応し、これらに取り組むために投資を行う中、上場株式市場において社会および地球にプラスの影響をもたらす企業への投資機会がかつてないほど広がっています。

社会および環境の変化の正しい方向にある企業の株式に投資する上で、インパクト投資は極めて重要であると考えています。インパクト投資は、良好なインパクト特性を持ち、かつ追加リターンを獲得が見込める銘柄への選別投資の機会を提供します。

ポートフォリオを通じてポジティブなインパクトを達成するための手段は、企業への投資を通じてその収益や活動の成果を獲得するという方法以外にも存在すると我々は確信しています。

その他の手段として、企業とのインパクト志向のエンゲージメント、

積極的な議決権行使、それらに関連した影響のフィードバック・ループ（フィードバックを繰り返すことで、結果が増幅されること）と並行して、インパクト創出を目指して新たな資金を配分することなどが挙げられます。

当戦略の運用プロセスの明確な原則である「**マテリアリティ（重要性）**」と「**メジャラビリティ（測定可能性）**」は、ポジティブなインパクトを見極める土台となります。また、我々は投資の成果として「**アディショナルリティ（追加性）**」（その資源提供がなければ生じなかった追加的な効果）を追求します。上場株式の運用者として投資を通じ変化を生み出し、エンゲージメントと議決権行使を通じて変化を加速させたいと考えています。地球と国際社会は非常に複雑な問題を抱えているため、インパクトをもたらすには忍耐と変化に対する理解が求められます。したがって、インパクト志向の運用アプローチを採用する上では「**レジリエンシ（強靱性）**」が不可欠です。

## インパクト憲章

### マテリアリティ (重要性)



企業活動と明確に定義されたインパクトの柱との整合性を投資の基準とし、常に将来のポジティブな変化という側面を確保します。

### メジャラビリティ (測定可能性)



意図的なインパクトを特定のフレームワークを用いて計測することで、結果を個別および総合的に定量化します。

### アディショナルリティ (追加性)



環境面および社会的にポジティブな成果をグローバル規模で捉えると同時に、インパクト投資を加速させるために自社の規模とリソースを活用することにコミットします。

### レジリエンシ (強靱性)



創造的破壊と極端な結果が生まれる時代において、ポジティブな変化には強靱性が求められます。顧客のために優れた成果を追求する上で、忍耐と協働が鍵を握ります。

インパクトとは  
現状だけでなく、  
今後の変化と持続性  
も含めた概念である。  
また、意識的な行動、  
優れた執行および  
アディショナルリティ  
(追加性) への  
コミットメントを  
必要とする。

## インパクトの重要性に基づき投資ユニバースを定義

すべての投資は、インパクトのマテリアリティ（重要性）を銘柄ごとに評価することから始まります。責任投資チームは、慎重なスクリーニング、環境・社会・ガバナンス（ESG）ファクターに対する深い理解、業界固有かつ将来を見据えた組入れ基準に従って当戦略の投資ユニバースを定義します。

### 重大な損失を回避するための方策：インパクト投資除外リスト

先進国と新興国の大型・中型株で構成されるグローバル株式指数（MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス）の採用銘柄約3,000銘柄を対象にスクリーニング\*を行い、重大なマイナスの影響を及ぼすと見られる分野の銘柄を除外します。また、独自の責任投資モデル（RIIM）分析を活用し、特定の問題またはESGリスクの中で個別に考慮すべき分野を見極め、個別企業の活動内容に基づき銘柄を除外します。

### ESGの体系的かつ能動的な統合

当戦略は、ESGインテグレーション・プロセスを通じて、企業の業務運営に影響を及ぼす環境・社会動向を把握します。

ESGファクターを能動的かつ体系的に統合することにより、明確に定義されたポジティブなインパクト・テーマが、我々の全ての投資判断の基盤となります。我々は、ESGファクターを従来の投資テーマから切り離すことはできないと考えており、ESGファクターを含む企業のファンダメンタルズは、銘柄選択プロセスにおいて重要な役割を果たします。

ESGインテグレーションは、以下の3段階で行われます。

1. ファンダメンタル・リサーチおよび責任投資リサーチに携わるアナリストは、ESGファクターを各自の分析に取り入れます。
2. ティー・ロウ・プライス独自のRIIM分析を定期的に行い、個別銘柄およびポートフォリオ全体のESG特性を把握します。
3. ポートフォリオ・マネジャーは、ESGの分析・評価を投資テーマおよびポートフォリオ構築プロセスに統合します。

## ティール・ロウ・プライスのインパクト投資除外リストを構成する現在のカテゴリー



### 成人向け娯楽

成人向け娯楽が売上高の5%以上を占める企業



### アルコール飲料

アルコールが売上高の5%以上を占める企業



### 攻撃型兵器

民生用の半自動銃器を製造または販売する企業



### 問題兵器

対人地雷、クラスター爆弾、焼夷弾、生物兵器、化学兵器、核兵器を直接取り扱う企業



### 通常兵器

通常兵器の売上高が全体の5%以上を占める企業



### 営利目的の刑務所

営利目的の刑務所が売上高の5%以上を占める企業



### 化石燃料

燃料炭の生産が売上高の5%以上を占める企業および世界産業分類基準（GICS）やブルームバーグ業種分類基準（BICS）で石油・ガス産業に含まれる企業



### 賭博

直接行う賭博業務が売上高の5%以上を占める企業



### タバコ

タバコまたはタバコ製品の主要原料を生産する企業



### 不祥事

環境・社会・倫理・ガバナンスに関する規則等の重大な違反を犯しており、問題を是正するために適切な措置を講じていないと運用担当者が考える企業または政府機関

\*スクリーニングは、通常、関連する企業とその子会社にのみ適用されます。少数株主（50%以下の持分）であることは、通常、スクリーニングにおいて考慮されません。

# ESGインテグレーション・プロセス



独自の <b>リサーチ・ツール</b> を使い、ESG課題を抱える銘柄を <b>特定</b>	ESGスペシャリストはESGリサーチ・ツールが <b>特定した銘柄をさらに分析</b>	アナリストとポートフォリオ・マネジャーに <b>ESG分析を提供</b>
<b>責任投資モデル (RIIM)</b>	責任投資チームは <b>RIIMが特定した銘柄のファンダメンタルをさらに分析し、エンゲージメントや議決権行使に係る提言等</b> を提供	<b>アナリストとポートフォリオ・マネジャーはESGファクターを戦略に適する形で、以下に統合</b>
<b>当社独自の議決権行使ガイドライン</b>	<b>議決権行使ガイドラインから逸脱する企業をさらに分析し、エンゲージメントや議決権行使に係る提言等</b> を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資テーマ</li> <li>レーティング</li> <li>目標株価</li> <li>エンゲージメント</li> <li>保有比率</li> <li>議決権行使</li> </ul>



上記は例示のみを目的としています。

## 国際連合の持続可能な開発目標 (SDGs) との整合性を確保

SDGsは、貧困をなくし、地球環境を守り、繁栄を実現することを目的とした、世界的に認められている枠組みです。当戦略の投資哲学はこのSDGsに沿っています。これは、ポジティブなインパクトを追求する上で、顧客、運用チーム、投資先企業を網羅するすべてのステークホルダー（利害関係者）の利益を合致させる最善の方法であると考えています。

このアプローチが実質的で実効性があることを確保するために、我々は将来を見据えた視点で変化を捉え、マテリアリティ（重要性）とメジャリティ（測定可能性）の観点から明確に定義さ

れたポジティブなインパクト・テーマに基づき、全ての投資判断を行います。SDGsを指針として、事業活動および以下に掲げる投資に関する3本の柱および8つの小分類との整合性を評価します。

投資対象となる企業は、インパクト投資に係る4つの組入れ基準のうち少なくとも一つを満たす必要があります。

- 現在の売上高または利益の大半がインパクトの小分類のうち少なくとも一つと結びついている
- 10年後の予想売上高または利益の大半がインパクトの小分類のうち少なくとも一つと結びついている

インパクトの3つの柱と小分類

### 気候と資源へのインパクト

- 温室効果ガス (GHG) の削減
- 健全なエコシステムの推進
- 循環型経済の推進

### 社会的公正性と生活の質へのインパクト

- 社会的公正の実現
- 健康的な生活の確保
- 生活の質の向上

### 持続可能なイノベーションと生産性へのインパクト

- 持続可能なテクノロジー
- 持続可能な産業とインフラの構築

UN SDGs との整合性

ティール・ロウ・プライスはインパクトの柱と小分類に関しては独自の構造を使います。SDGsには17の目標が含まれています。追加情報については、<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>をご覧ください。

3. 特定の分野で最高水準の問題解決策を提供している

4. 特殊なインパクトを生み出す

これらのインパクトの柱に照らして投資を通じ、ポジティブなインパクトを追求することが、すべての投資判断の条件となります。

### メジャラビリティ（測定可能性）

結果の定量化と測定は、インパクト投資家が直面する最も重大な課題の一つです。その理由は、データが過去に実現したインパクトを基盤としているのに加え、一般に認められた測定基準がない中で、変化の進捗を捕捉する必要があるからです。資産運用会社を含むインパクト投資のプロフェッショナルのネットワークは、顧客向け報告の透明性を高めるために進化し続けており、統一した用語、フレームワーク、そして原則の策定に取り組んでいます。このようにインパクトの管理と測定に関するベストプラクティスが急速に発展していることに鑑み、我々は結果の定量化と測定に係るアプローチを常時見直しています。

### インパクトの精査：ファンダメンタルズとリスクの評価

我々は個別企業が生み出すインパクトの精査に、インパクトの5つの視点から評価するフレームワークを用います。このフレームワークは、インパクトの評価に携わる2,000以上の機関の実務家が参加するインパクト・マネジメント・プロジェクトが策定したものです。

このフレームワークを用いて企業のインパクト創出能力と創出能力に影響を及ぼす可能性のあるリスクを総合的に評価します。

5つの側面は以下の通りです。

1. 測定期間中にどのような結果が起きているか？
2. その結果の影響を受けるのは誰か？
3. どの程度（規模、変化の度合い、期間）の結果が起きているか？
4. 寄与度 – この変化はいずれにしても起きていた可能性が高いのか？

## インパクトの測定方法



整合性

3本のインパクトの柱と8つの小分類との整合性を定量化

厳格かつ測定可能なインパクト投資ユニバースを作成するため



ファンダメンタルズ

インパクトの視点でファンダメンタルズを評価

インパクト・マネジメント・プロジェクトの5つの側面を用いて、企業が達成したインパクトの成果に対する理解を深める



結果

結果とインパクトを測定

変化理論に従い、可能な限り外部データを用いて定量化する



リスク

インパクト・リスクを理解

リスクを識別し、インパクト・テーマの進化および悪化を追跡する

5. リスク – 想定通りのインパクトが生まれなかった場合、人々や地球にとってどのようなリスクがあるのか？

このプロセスでは、データの入手可能性に応じて、グローバル・インパクト投資ネットワーク（GIIN、Global Impact Investment Network）が作成した「IRIS+」指標カタログの指針と指標を利用します。

この分析を通じて、インパクト・テーマを形式化し、外的要因による不利益とリスクを見極め、各企業の重要評価指標（KPI）を定義します。

インパクトの精査は、企業に対するエンゲージメントの出発点でもあります。この段階において、運用チームと責任投資チームは、インパクトを測定する上で必要なディスクロージャーの不備を特定する場合があります。

### 結果とインパクトの測定

年末に作成するインパクト評価レポートにおいて、株式の保有状況やインパクトの成果、エンゲージメント、議決権行使、必要に応じて固別の売却事例について顧客に明確に伝える予定です。可能な限り個別および全体のインパクトを計測し、複雑な状況を単純化し過ぎることなく、透明性を確保するよう目指します。

初回のインパクト評価レポートは2022年に作成する予定です。インパクト評価においては、問題の要因とそれを解決するための変化、そこから得られる結果を図式化し、変化をつながりとして図に表す「変化の理論（セオリー・オブ・チェンジ）」モデルを用います。当モデルは、達成された結果の測定を通じて、投資先企業の取り組みがどのようなインパクトをもたらしているのかを評価する明確かつ包括的なフレームワークであると考えています。このフレームワークは、特定の社会・環境的成果を上げるために企業が講じた措置を説明し、時系列で示します。

このアプローチを採用することで、長期的なインパクト目標の達成に向けた企業行動の有効性と進捗について、厳格な基準が確立されます。

インパクト・マネジメント・プロジェクトは、ブリッジズ・ファンド・マネジメント・リミテッド（会社番号10401079）（「ブリッジズ」）によるプロジェクトです。

企業行動は補完的なものもあれば相反する結果に繋がるものもあり、我々は投資に際してはこれらの複雑性を評価手法に反映させ、また年次報告書においてケーススタディを開示していきます。

### アドিশヨナリティ（追加性）：アクティブ・オーナーシップ（積極的な株主行動）を通じたインパクトの推進

ポートフォリオを通じてポジティブなインパクトを達成するための手段は、社会や環境にプラスの影響を及ぼすと見込まれる企業への投資を通じてその業績や活動から得られる収益を捕捉するという方法以外にも存在すると確信しています。その他の手段として、インパクト志向の企業とのエンゲージメント、積極的な議決権行使、それらに関連した影響のフィードバック・ループ（フィードバックを繰り返すことで、結果が増幅されること）と並行して、インパクト創出を目指して新たな資金を配分することなどが挙げられます。

ファンダメンタル・リサーチや責任投資リサーチのアナリストおよびガバナンス・チームと協力してインパクトを推進することで、当戦略の顧客のみならず、その他の投資家にも利益をもたらす可能性があると考えます。

### エンゲージメント・プログラム

エンゲージメントは、インパクト投資の運用者が企業のインパクト目標達成に向けた進捗を追跡し、必要に応じてサステナビリティのベストプラクティスに関する指針を提供するための重要なツールです。

エンゲージメントに際しては個別企業に焦点を当てており、広範なテーマを特定し、複数の企業に対して同じ問題に関するエンゲージメントを行うことは通常ありません。我々はリサーチを通じて個別銘柄のパフォーマンスを妨げる可能性がある要因を特定し、企業に対して具体的な変化を提案する場合や、十分な情報に基づいて投資判断を下すためにESGの問題に関する追加情報を求める場合があります。ファンダメンタル分析を土台とするアクティブ運用を行うという当社の基本的な運用アプローチに沿い、個別企業に焦点を当てた手法を取ることで、インパクトを最大化できると考えています。

顧客から信頼を得ることで、ティー・ロウ・プライスは多くの世界トップクラスの企業に対する大口の投資家となっています。そのため、ほとんどのケースにおいて、企業の経営陣との面談が可能であり、これはエンゲージメントと分析の双方において非常に有益です。例えば、

- 事業のプラス面を推進することが見込めると同時に
- 事業運営にあたり避けられない外的要因による不利益を軽減することに役立ちます。

我々が担う追加的な役割として、企業によるインパクトの評価・測定の実施を通じたディスクロージャーの向上を目指すことが挙げられます。

我々はまた、投資先企業の経営陣との定期的な対話を通じてエンゲージメントの成果を測定します。エンゲージメント・プログラムは運用部門が主導しており、独自のRIIM分析、ガバナンス・スクリーニングおよびアナリストのファンダメンタル・リサーチを活用し、エンゲージメント対象企業を特定します。

企業の経営陣は、アクティブ運用者である我々が保有株式を売却する選択肢を有することを認識しています。よって、運用部門が主導するエンゲージメント・アプローチは、有意な結果を生み出す可能性があります。

エンゲージメントの目的は、影響力を行使して企業が他社より良好な業績を達成する確率を高め、顧客の投資目標達成を支援することです。そのために、以下に掲げる様々なスチュワードシップ活動を行っています。

- 定期的かつ継続的な投資先の精査
- ESGの問題に関する経営陣とのエンゲージメント
- 率直なフィードバックの提供を含む経営陣との面談
- 取締役会メンバーとの面談
- 株式保有比率の増減
- 新規投資または売却
- 稀なケースであるが、経営陣の支援を目的に、または企業の長期的な最善の利益のため経営陣が方針を変更するように促すため、企業に関する公式声明を行う。

現在、一部のエンゲージメントに関する四半期エンゲージメントレポートを公表しており、当戦略に関連するすべてのエンゲージメント活動と議決権行使結果を年1回のインパクト評価レポートにまとめる方針です。

### ↓ ティー・ロウ・プライスのエンゲージメント方針

議決権行使は、顧客の代わりにスチュワードシップ責任を果たす上で重要な要素です。議決権行使は、企業の株式保有に伴う権利であり、責任でもあります。

ティー・ロウ・プライスでは、議決権行使に伴う責任を深刻に受け止めており、議決権行使にあたり、コーポレート・ガバナンス（企業統治）原則と企業固有の状況の双方を考慮します。議決権行使における最も重要な目的は、企業と投資家の長期的かつ持続可能な成功を促進することです。

議決権行使プログラムは、発行企業との関係を構成する側面の一つです。これらの企業との関係において、エンゲージメント、投資先の精査、投資判断を含むその他の側面を補完する手段として議決権行使を活用します。

当戦略は、強化された独自のガバナンスおよび議決権行使アプローチを採用しています。

- 当戦略では、ESGのディスクロージャー水準が合理的な期間内に期待する水準に達しない場合、取締役会議長またはその他の関連する取締役の選任に反対することがあります。また、企業がサステナビリティ会計基準審議会（SASB）や気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）のディスクロージャー基準に沿って情報開示を行うように推奨しており、議決権行使内容を決定する際、この点を考慮します。

- また、低炭素経済への移行に対する備えが不十分であるなど、ESGの問題に関する監督が不適切であれば、取締役会議長またはその他の関連する取締役の選任に反対することがあります。
- さらに、ESGのディスクロージャーや慣行の改善を要求する株主決議については、通常の運用戦略に比べてより広範囲に支持する方針です。

## ↓ ティー・ロウ・プライスの議決権行使ガイドライン

### 知識の共有

インパクト投資の運用者として、我々はインパクト投資慣行を推進し、充実させる責務を負うと考えています。そのため、当戦略の知見や視点を運用部門内で共有し、社内でアディショナリティ（追加性）を発揮することにより、ティール・ロウ・プライスのリソースを結集してより多くの顧客に利益をもたらすことを目指しています。

特定の問題に関してリソースと知見を結集することで、顧客と知識を共有することができると期待しています。インパクト投資はまだ初期段階にありますが、各種レポートの提供や開かれたコミュニケーションを通じて、インパクト投資の課題を世界中の顧客と共に進めていく所存です。アディショナリティ（追加性）の精神を発揮してこの分野の発展を継続していきます。

### レジリエンシ（強靱性）

環境面の持続可能性を追求するのにレジリエンシ（強靱性）やコミットメント、想像力が繰り返し求められるのと同様に、インパクト投資にもこのような要素が求められます。綿密な分析や長期的な信念を投資判断の中心として、長期にわたりインパクトとアルファの両面で目標を達成するためにアイデアを総動員し、顧客の良きパートナーとなることを目指します。

### 厚みのあるリサーチ能力に基づく将来を見据えたアプローチ

インパクト達成への道は複雑で平坦ではなく、忍耐を必要とすることから、サステナビリティの課題を解決するために投資を行う際には、長期的かつ総合的な見方が必要です。先見性は、変化の激しい世界においてインパクト投資が過去実績に基づくインデックス投資と差別化できる重要な要素であり、インパクト投資の成功および長期的な付加価値創出にとって不可欠の側面です。

株式に関する視点を統合し、十分に認識されていないと見られるプラスのインパクトおよび株価に適正に織り込まれていないと思われる経済的利益の改善を、真にグローバルな観点から個別銘柄毎に見極めます。銘柄選択においては、将来の変化を見据え、独自の調査に基づき高い確信度を有する企業を発掘します。当戦略は、変化し続ける世界におけるあらゆるインパクト投資の機会を幅広く捉えることを目指しており、ポートフォリオの慎重なリスク管理のみならず、SDGsの達成を目的とする観点からもこのように将来性を重視した銘柄選択アプローチを採ることが重要です。

### リサーチ、測定、報告、反復

インパクト投資がリスクとチャンスが混在する複雑な世界に存在していることから、様々な課題が生じています。我々は、インパクトを精査する際に考慮する要素を形式化し、インパクト・テーマを導き出し、外的要因による不利益とリスクを見極め、重要業績評価指標（KPI）を定義します。年次のインパクト評価レポートでは、これらのKPIの変化を追跡することで捉えられる企業のインパクト目標達成に向けた進捗を報告する方針です。

また、我々は顧客の良きパートナーとして、インパクトの測定と報告におけるイノベーションに貢献し、インパクトに係るデータとその信頼性の確立をサポートすることを目指します。当社リサーチの専門知識の様々な側面（ESG分析とファンダメンタルズ分析の双方）を活用しつつ、責任投資やインパクトに関する報告の分野に投資することが、長期的に我々の大きな強みになると考えています。

インパクト投資の運用者として、アディショナリティ（追加性）を発揮して、サステナビリティを追求する企業との率直なエンゲージメントを徹底する必要があると考えています。株主としての立場を活用して企業との対話を行い、事業のプラス面を推進させ、外的要因による不利益を軽減できるよう補佐します。

こうした取り組みにおいて、グローバルなリサーチ体制と規模を活用することによって、投資リターンへの達成と将来世代のためのインパクト創出という当戦略の2つの運用目標の両立を追求することに貢献していく所存です。変化には時間がかかることから、粘り強さが求められますが、これは多くの点において長期投資の成功する要件と共通しています。

### リスクー以下のリスクは、ポートフォリオに重要な影響を及ぼします。

**スタイル・リスク** 異なる投資スタイルは、通常、市場状況や投資家のセンチメントに応じて成果が異なります。当社は確信度が高く、プラスのインパクトに根差した長期的な運用アプローチを採用しています。このアプローチはリターンおよび特に長期的な累積リターンに有利に働くと見えますが、長期的な利益やキャッシュフローのファンダメンタルズに関連しない要因が市場を左右する時があります。ボトムアップを重視していることから、マクロやトップダウンが重視される局面は、リターンに対する逆風を生み出す可能性があるものの、これらは株価を左右する要因として一時的なものに終わる傾向があります。

### 一般的なポートフォリオのリスク

**キャピタル・リスク** 投資金額は変動し、元本は保証されません。ポートフォリオの基準通貨と申し込み通貨が異なる場合、投資金額は為替レートの変動による影響を受けます。

**環境・社会・ガバナンス（ESG）およびサステナビリティ・リスク** 環境の変化、社会通念の変化、サステナビリティの問題に関する規制環境の変化のため、投資先企業の利益や収益性は影響を受ける可能性があります。

**株式リスク** 株式は一般に債券やマネー・マーケット商品よりもリスクが高くなります。

**地理的集中リスク** ポートフォリオが特定の地域にその資産の大部分を投資する場合、そのパフォーマンスはその地域で生じる事象の影響をより大きく受けることになります。

**ヘッジ・リスク** ヘッジを通して特定のリスクを軽減または排除しようとする試みが、意図したとおりに機能しない場合があります。

**投資ポートフォリオ・リスク** ポートフォリオに投資する場合は、市場に直接投資する場合とは異なる特定のリスクが生じます。

**運用リスク** 運用会社または運用会社が指名する者にとって、あるポートフォリオに対する義務と他の運用ポートフォリオに対する義務が時として相反する場合があります（ただし、このような場合はすべてのポートフォリオが公正に取り扱われます）。

**オペレーショナル・リスク** オペレーション上の過誤によって、ポートフォリオのパフォーマンス、運用報告、取引執行などに影響が及んだり、金銭的損失が生じる可能性があります。

## INVEST WITH CONFIDENCE®

ティー・ロウ・プライスは、お客様に信頼していただける優れた運用商品とサービスを長期にわたってご提供することに注力しています。

[troweprice.co.jp](http://troweprice.co.jp)

## T.RowePrice®

### 追加ディスクロージャー

MSCI及びその関連会社ならびに第三者の情報源及びプロバイダー（総称して「MSCI」）は、当資料に含まれるいかなるMSCIのデータに関しても、明示的もしくは黙示的な保証または表明を行わず、一切の責任を負わないものとします。MSCIのデータは、その他のインデックスまたは証券もしくは金融商品の基礎として転載または転用することができません。当資料はMSCIが承認、確認または作成したものではありません。過去のMSCIのデータ及び分析は、将来のパフォーマンスの分析、予想または予測を示唆または保証するものではありません。いかなるMSCIのデータも、何らかの投資判断を行う（または行わない）ように投資助言または推奨を行うことを意図したのではなく、投資助言または推奨として依拠することはできません。

### 重要情報

当資料は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよびその関係会社が情報提供等の目的で作成したものを、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が翻訳したものであり、特定の運用商品を勧誘するものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料はティー・ロウ・プライスの書面による同意のない限り他に転載することはできません。

資料内に記載されている個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンド等における保有・非保有および将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。投資一任契約は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。

当社の運用戦略では時価資産残高に対し、一定の金額までを区切りとして最高1.265%（消費税10%込み）の逓減的報酬料率を適用いたします。また、運用報酬の他に、組入有価証券の売買委託手数料等の費用も発生しますが、運用内容等によって変動しますので、事前に上限額または合計額を表示できません。詳しくは契約締結前交付書面をご覧ください。

「T. ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者関東財務局長(金商)第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会/一般社団法人 投資信託協会